

いのち、痛みに全力

FUKUOKA WAJIRO HOSPITAL



地域医療により大きく貢献!!

第12号

平成18年12月



病院機能評価認定 臨床研修病院

医療法人財団 池友会

福岡和白病院

〒811-0213
福岡市東区和白2丁目2-75
TEL.092-608-0001
E-mail:info@f-wajiro.biz
http://www.f-wajiro.biz

福岡和白リハビリテーション学院 いよいよ願書受付開始!!

学校説明会への多数のご参加ありがとうございました。

豊かな未来へ、
リハビリテーションのスペシャリストを養成します。

和白的地で。
福岡市東区和白的学園エリアです。
電車ですぐ、ふくろく通学。
最新の最新校舎に、
最新の設備と機能を併せ持っています。

医療機関に隣接、
実践教育に自信があります。
協力施設の福岡和白病院に隣接。
各種リハビリテーション病院は近隣。
最新の医療設備を体験しながらの教育を致します。

姉妹校の実績があります。
小倉リハビリテーション学院(北九州市小倉南区)。
下関リハビリテーション学院(下関市下関区)。
八千代リハビリテーション学院(千葉県八千代市)での
実績があなたの未来をしっかりとサポートします。

平成19年4月 新規開校

入学資格
3年課程(昼間コース)定員40名
4年課程(夜間コース)定員40名
入学資格: 高等学校卒業または同等の学力を有する者

入学試験科目
3年課程(昼間コース) 国語・英語・数学・理科・社会・保健
4年課程(夜間コース) 国語・英語・数学・理科・社会・保健
入学試験: 平成19年12月2日(土)・3日(日) 合格発表: 平成19年12月14日(日)
平成19年12月16日・17日(土)・18日(日) 入学式: 平成19年12月24日(日)

手に技術、頭には知識、心には愛を
福岡和白リハビリテーション学院は、
医療従事者の育成により、リハビリテーションの
分野で活躍する人材を育成することを目的として
設立されました。その中で、
医療従事者の育成に力を入れています。
その中で、
医療従事者の育成に力を入れています。
その中で、
医療従事者の育成に力を入れています。

優れた実績があなたのものに
福岡和白リハビリテーション学院は、
医療従事者の育成により、
リハビリテーションの
分野で活躍する人材を育成
することを目的として
設立されました。その中で、
医療従事者の育成に力を入
れています。その中で、
医療従事者の育成に力を入
れています。

福岡和白リハビリテーション学院
〒811-0213 福岡市東区和白2丁目2-75
TEL.092-608-0001 FAX.092-608-0002
URL: http://www.fukuoka-wajiro.ac.jp/ E-mail: info@fukuoka-wajiro.ac.jp

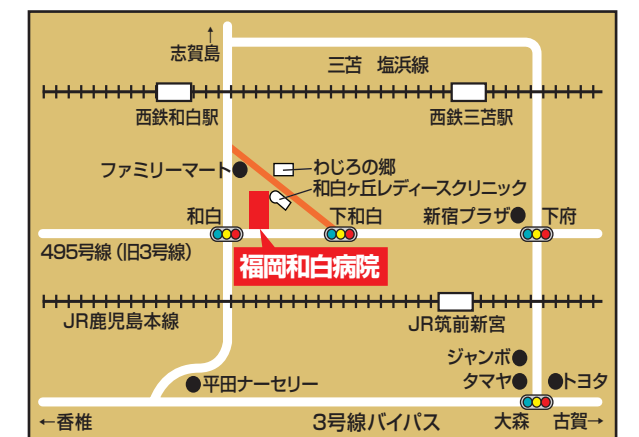
福岡和白病院の基本理念と基本方針

基本理念

手には**技術**、頭には**知識**、患者様には**愛**を

基本方針

1. 高度医療 学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。
2. 総合医療 患者様と医療情報を共有し、急性期治療から、早期リハビリ、在宅医療まで一貫した、患者様のニーズに沿った安全で安心できるチーム医療を提供します。
3. 地域医療 地域の医療・福祉施設と密接な連携を図り、いつでも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域医療の中核病院を目指します。



症例豊富な心臓大血管手術。高度な先進医療も積極的に導入

収録日 二〇〇六年十一月十九日
取材ライター 石田 真奈美

医療法人財団 池友会

福岡和白病院

心臓血管外科

心臓血管外科部長

濱田 正勝

平成元年、当病院に開設された「心臓血管外科」。以来、虚血性心臓病をはじめ、弁膜症及び胸部大動脈疾患など多数の心臓及び大血管手術を手がけ、着実に実績を築いてきました。その心臓血管外科部長の激務を平成12年10月から務めるのが濱田正勝先生です。そこで当病院で扱ってきた心臓血管外科手術の実績や先駆的な取り組み、また濱田先生が志す心臓血管外科治療について聞きました。

Q 福岡和白病院の心臓血管外科では主にどんな症例や手術を扱っていますか。

濱田 主に、おとなの心臓大血管手術が対象になります。狭心症や心筋梗塞といった虚血性心臓病、弁膜症、大動脈解離や大動脈瘤といった大動脈疾患などです。私が当病院に着任した平成12年10月から現在までに行った心臓及び胸部大血管手術は約4500例に上ります。内訳は、虚血性心臓病に対する冠動脈バイパス手術などが約50%、弁膜症に対する弁置換術または弁形成術などが約25%、大動脈疾患に対する人工血管置換術などが約25%（大動脈疾患のほとんどが緊急手術、その他先天性心疾患や心臓腫瘍などの手術もあります。約80%の400例を執刀してきました。最近では、70〜80代の高齢者だけでなく、30〜40代の若年者の患者さんも増加しています）。

Q 福岡都市圏の医療機関の中で、当病院の「心臓大血管手術」実績は、

濱田 福岡都市圏では、九州大学や福岡大学といった大学病院、九州医療センターなどに心臓血管外科があります。おとなの心臓大血管手術に関しては、症例の多い施設でも年間1500例程度です。当病院は、平成13年の年間36例から平成17年には年間102例と手術症例が飛躍的に増加しています。手術症例の約半分は、心臓血管外科のない他の医療機関（循環器内科）からの紹介です。

Q 先生自身、これまでどのような手術を手がけてきたのですか。

濱田 大学卒業のち外科医を目指して、2年目には乳癌（乳房切除術）及び肺癌手術（肺葉切除術）などを執刀。心臓大血管手術に関しては、8年目から大動脈弁置換術や冠動脈バイパス手術などを執刀。以来、

曜日は昼から夜まで予定手術。木曜日は朝から昼過ぎまで予定手術、その後緊急手術。金曜日は朝から夕方まで予定手術。土曜日は昼から準緊急手術。手術だけでも週に20〜30時間になることもあります。手術のあと患者さんの状態に対する注意が必要なので、私たちは病院へ泊まり込みます。救急搬入、緊急手術となることも珍しくないので、当科のスタッフはみな病院から5〜15分圏内に居住しています。

Q 当病院では新しい手術法の採用のほか、先端の医療機器の導入も積極的です。

濱田 近年、人工心肺装置を使わないで行う冠動脈バイパス手術が注目されています。当病院でも、冠動脈バイパス手術の約9割を、人工心肺装置を使わない心拍動下にて執刀しています。人工心肺装置を使うと、手術後に動脈硬化に伴う全身の血管病変による合併症（脳梗塞など）が起る危険性が高まるのです。心拍動下にての冠動脈バイパス手術の技術習得とともに、私自身の手術技術の向上、成長ができたのだと思います。

また、当病院にはBVS5000（補助人工心臓）という重症心不全の際に心臓の代わりを務める装置があります。非常に高価なので常備する医療機関はごく少数です。実はこの秋、非常に重症の急性型心筋炎が原因で、突然心臓停止状態になった10代の患者さんが搬入されました。心臓マッサージを施行しながら経皮的肺補助装置（PCPSS）を装着、半日後にこのBVSに取り替えました。9日後に心臓の動きが戻り装置を取り外すことができました。BVSがあればこそ救命ができました。先駆的な導入ですが、当病院は臨床工技士などの専門スタッフが揃っているからこそ、このような装置も活用できます。

Q 心臓血管外科を受診される患者さんへアドバイス。

濱田 心臓血管手術に不安を抱かれるのは当然ですから、十分に理解し納得された上で手術治療を受けていただきたい。怖がることはありませんよ（笑）。

また、患者さんはみな身体の状態が異なるので、たとえ同じ病気でも100%同じ手術はありません。患者さんの状態に応じた手術を考えています。その点も理解していただきたいです。

Q 今後の心臓血管外科を志望したのですか。

濱田 なぜでしょうねえ（笑）。もともと外科志望で、出身の産業医大胸部外科の教室に入局、心臓、肺、食道などを幅広く扱い、良い経験になりました。その後、2年間産業医として勤務しましたが、手術に携わりたいという思いが強く佐賀医大へ。佐賀医大では心臓血管外科が主で、心臓血管外科医としての修練を行いました。出張病院ではまたま部長不在の時に、初めて冠動脈バイパス手術を執刀する機会もありました。

当病院着任まで大学病院を中心に、数々の心臓大血管手術を経験してきました。

Q 患者さんやご家族にとって心臓手術は非常に不安が大きいですか。

濱田 手術に要する時間は平均4〜6時間、まれに10時間を超す大手術もあります。手術方法は、ほぼ確立されているので、手術から回復に関しては患者さんご自身の手術前の状態（心臓の機能や合併疾患の状態）が大事になります。さまざまな合併疾患を持たれている患者さんも多いですが、全ての症例を手術より無事に回復できるようにスタッフ一同で努力をしています。

冠動脈バイパス手術は1.5〜2.0ミリの程度の血管を縫い合わせる非常に細かい技術です。最初はベテラン医師に付いて学び、豚の心臓を使って実習したこともあります。今では、1ヶ所10〜15分、約20針程度で縫合可能です。

緊急手術も多くある過なく、日曜日の夕方から月曜日の朝まで緊急手術。火



Q このように忙しさと息抜きをする時間もないのは、

濱田 テレビでの野球観戦が息抜きでしょうか。広島出身なので広島カープの大ファンです。私が中学1年の時にカープ初優勝、高校2年と3年の時に日本シリーズで優勝したんですよ。残念ながら、最近では野球観戦にも行けてませんね。

Q 学生時代は野球部ですか。

濱田 大学時代は、社会人のアイスホッケークラブに所属していました。今でも佐賀のクラブに所属していて、メンバーは毎週夕留米で練習をしています。私も車にアイスホッケー道具一式をいつも乗せているのですが、なかなか練習に行けませんね。家族からは、道具が「場所かさぎ、臭い」などと不評で（苦笑）。平成10年の長野五輪の時は、長野在住の外国人の友人をたよってアイスホッケーを観戦。平成11年の長野国体の時は、佐賀県チームのチームドクターとして参加。実際は、応援というか観光というか（笑）。

普段は娘にかこつけて、自宅周辺でインラインスケートを楽しむ程度です。手術の夜は病院に泊まり込んで朝方に帰宅。朝食の時に子供たちの顔を見るくらいで、家族たちらんも難しいですね。

Q 最後に、先生が志す手術や治療について。

濱田 モットーは「良い手術をする」と。きれいで、納得のいく手術です。良い手術だと患者さんの手術後の回復が良い、結果が正直に現れます。最近、事前にインターネット等で手術の症例数などの病院の実績を調べて受診される患者さんも増えてきました。当科では手術成績を公開していますし、所属する心臓血管外科の学会でも手術成績等をすべて公開する方向にあります。情報公開の時代ですから当然ですが、手術の結果を求められる厳しい時代だと引き締めています。私たちも常に勉強し努力しなけ

ればならない。また、今後は若手医師の育成も課題です。若手医師には心臓血管外科に少しでもいいから挑戦してほしいですね。



Profile



医療法人財団 池友会 福岡和白病院
心臓血管外科 心臓血管外科部長 濱田 正勝
(はまだ・まさかつ)

1963（昭和38）年1月、広島県福山市出身。
1981（同56）年産業医科大学医学部入学。卒業後、産業医科大第二外科（胸部外科）入局。各地の病院で勤務後、1994（平成6）年佐賀医大胸部外科入局。96年同医大胸部外科助手（病棟医長、医局長）等を経て、2000年10月福岡和白病院心臓血管外科部長就任。趣味はアイスホッケー。プロ野球「広島カープ」ファン。



現地スタッフと、村民の生活状態などもチェック



遠くからも大勢の患者が診療所に詰めかけた



診療風景。多い日には1日約500人も診察



バングラデシュでともに救援活動をした仲間と

「福岡医療NGO」が2002年から力をそそいできたのが「バングラデシュ水害救援医療活動」。水害は単年だけでなく毎年のように各地に被害をもたらすため、06年まで毎年、計5回に亘る活動となりました。

初年度の02年は同NGO・国連ハビタット・福岡市の共同主催で調査訪問。林先生をはじめ医師や診療技術者、看護師、医学生など20〜50代の計7人が2班編成で渡航しました。翌03年は具体的活動に移行。8月、日本人スタッフ

■5年にわたったバングラデシュ救援医療活動

「福岡医療NGO」が2002年から力をそそいできたのが「バングラデシュ水害救援医療活動」。水害は単年だけでなく毎年のように各地に被害をもたらすため、06年まで毎年、計5回に亘る活動となりました。

初年度の02年は同NGO・国連ハビタット・福岡市の共同主催で調査訪問。林先生をはじめ医師や診療技術者、看護師、医学生など20〜50代の計7人が2班編成で渡航しました。翌03年は具体的活動に移行。8月、日本人スタッフ



フ4人がバングラデシュ北部のクリグラムに入り、現地スタッフらと支援活動を展開。

「前後を含め10日間の滞在で、診療は実質4日間、1日約500人も診察しました。主に感染症対策です。水害でありながら現地にはきれいな水がなく、環境は最悪。想像以上の状態に、みな最初は驚きました。救援医療は設備が整った地域だけではありません。スタッフにとっても厳しい実地訓練となったようです。

■貴重な体験を今後の活動にフィードバック

阪神・淡路大震災から11年。国内の救援活動の充実について、林先生は「自衛隊や日赤の初動体制が充実した。災害初期の救援活動は自衛隊や日赤など大組織にまかせ、民間はその後のボランティアとして救援活動に力を注ぐべきだと思つ」と語ります。

また他の活動同様、ボランティアも人材、財源、物資そして時間的余裕が不可欠。いつ発生するか知れない災害に、医療関係者、特に医師がボランティアで緊急出動するのは非常に難しいのが現実。

「今後の課題は、第一に被災地への迅速な出動。そのた

阪神・淡路大震災がきっかけで始めた医療救援活動。バングラデシュ水害救援など、活動体験を今後に生かして

林医師 海外派遣活動

ある一つの物事が、人生の節目や何かの転機になることがあります。95年1月に起きた「阪神・淡路大震災」。あのとき医療ボランティアとして自発的に単独で現地入りしたのが当病院リウマチ・関節症センター長の林和生医師です。

その後、林先生は非営利団体『福岡医療NGO』を設立。同団体の代表を務め、ボランティア活動を展開してきましたが、2006年10月、満11年を迎えたのを機に組織を改編。このたび一般の医療ボランティア団体として再スタートを切りました。そこで長い同団体の歩みを振り返ってもらいました。



医療法人財団 池友会

福岡和白病院

リウマチ・関節症センター長

林 和生 医師

■阪神・淡路大震災で医療ボランティアに従事

6300人余もの死者を出した阪神・淡路大震災。全壊した建物、横倒しになった高速道路などテレビで流れる衝撃的な映像に言葉を失った人も多いことでしょう。その映像の中に「あとかたもなく崩壊した病院を見た」事が、林先生の医療ボランティア活動のスタートとなりました。

当時、九州大学医学部に勤務していた林先生はすぐに病院長（熊澤浄一泌尿器科教授）に相談。年休を取って神戸に行くつもりが、仕事で派遣されることになり、被災4日目に単身現地入り。「姫路までは新幹線、須磨までは在来線が通じていましたが、その後は徒歩で神戸まで15〜20kmほど行った」のです。

神戸市役所にボランティア本部が設置され、林先生は1週間、民間病院や長田区役所など各所で診療に従事。「慢性疾患の患者さんに投薬処方するなど覆る間もなく対応した。とにかく全壊した基幹病院が多く、想像を絶する事態で」と振り返ります。その後、九大でも神戸市の要請を受け、2月から3月にかけて医療スタッフを派遣。神戸市中央区で医療支援活動を行いました。

その体験から、大震災時にボランティアとして活動した医師を中心に、同年12月「福岡医療NGO」を設立。熊澤代表、林事務局長の体制でスタートしました。

■現地派遣のほか、多様な災害訓練を定期的に実施

発足した「福岡医療NGO」は各方面から注目されただけでなく、実際にさまざまな災害の現場に赴きました。最初に出動態勢を敷いたのが、96年6月福岡空港で発生したガルーダインドネシア航空機事故。その後も00年3月北海道・有珠山噴火災害、04年10月新潟県中越地震、そして05年3月福岡県西方沖地震など、たびたびボランティアとして現地入りしてきました。

「ガルーダの時はまず1人で現地に行き、仲間には待機を依頼。有珠山の時は3人で現地入りしたら、青年会議所が案内役を務めてくれた。新潟の時はまず1人で現地入りしましたが、基幹病院が機能していたので数日の滞在で済みました」と林先生。

阪神・淡路大震災以来、国内では年を追うごとに緊急救援体制が充実。幸い、必ずしも毎回遠隔地から駆けつける必要はなくなってきたようです。

同NGOでは一般市民を含めた訓練も実施。春の緊急出動シミュレーション、秋の災害シミュレーションのほか、行政主催の防災訓練への参加や医学総会などでも災害訓練を行いました。「多数の傷病者が発生した場合、傷病者の緊急度や重傷度に応じて適切な搬送・治療を行うトリージング訓練や、緊急出動訓練、災害図上訓練な



市民参加の救助訓練も定期的開催した



福岡県西方沖地震の爪跡

「アジアの国境なき医師団を目指したんだけど…」と苦笑する林先生。今後はバングラデシュ等の貴重な体験を「より具体的・現実的に救援活動に生かしたい」ことが、再スタートを切った新ボランティアグループの充実が期待されます。

Profile



医療法人財団 池友会
福岡和白病院

リウマチ・関節症センター長
林 和生
(はやし・かずお)

昭和29年生まれ。同53年九州大学医学部卒。九州大学医学部助教授、原土井病院整形外科部長、貝塚病院副院長を経て、平成17年11月福岡和白病院リウマチ・関節症センター長。専門は整形外科で、関節リウマチ・股関節・膝関節の外科治療など。



和白病院アメリカ研修に参加して



和白病院研修医2年目
久米村 正輝

今回9月23日から10月1日までの9日間の日程でアメリカ研修に参加させていただきました。池友会4病院より医師7名看護師2名の計9名での研修であり、忙しい日程の中で大変多くの経験を得ることができました。

昨年の4月に和白病院での2年間の研修医生活をスタートさせ、充実した研修を送る中で今後の自分の医師としてのあり方を考える時間がなかなかとれませんでした。今回この研修に参加するにあたって自分の周りだけでなく、環境の違う中で医師として診療に当たる姿を見て、今後の自分のあり方を少しでも考えることができればと思い、アメリカへと向かいました。

アメリカに到着して翌日は現地のスタッフと共に町の中を巡りました。その中で全員が希望したのがグラウンドゼロに行くことでした。まだ医師を目指して学生であったころに見た、あの衝撃的な事件の現場に今医師として救急診療に携わっている立場で訪れることができました。マンハッタンの大きな町並みにぽっかりと開いた大きな空間に気がつけば全員が自然と黙祷していました。

翌日より2日間現地の病院を見学させていただき、実際にコンピューターを用いた最新の整形外科の手術や迅速な処置、患者様のことを第一に考えた看護の様子などを目の当たりにしました。その中でも日本との大きな違いは入院期間が短いことでした。より早く自分の家に帰ること、そのために確実な手術をより早く行い、リハビリテーションにつなげることで病院という非日常的な空間から早く自分の本来の生活の場所に帰ることができるように病院全体が動いていたのが印象的でした。

今回の研修に参加するにあたり、多くの同僚に迷惑をかけましたが、それ以上に自分のこれからにとってとても大きな体験ができたと確信しています。

アメリカ研修旅行を終えて



和白病院研修医2年目
徳丸 哲平

平成18年9月28日から10月6日の日程でNew Yorkを中心としたアメリカ研修へ行かせて頂きました。私自身、アメリカへの憧れはあったものの、欧米社会に触れた事も無ければ北米大陸に足を踏み入れた事も無い状態でしたので、

空港を降りた瞬間の空気の匂いから初めての体験の連続でした。

研修の主たる目的であったValley病院研修では、精力的に働く多くの外科医に会いました。スタッフは人種、経歴すべてがバラバラでしたが優れた技術と目的を持って仕事をしている姿にアメリカという国の力強さを見たように感じました。研修中の大半の時間をすごしたNew Yorkという大都市にはパワーと人があふれていました。自由の女神やNew Yorkの摩天楼などテレビでしか見たことのなかった光景が眼前に広がり、日本では感じたことの無い開放感と自由を実感しました。そのなかで最も感銘を受けたものは、World Trade Center(Ground Zero)とそこで出会ったFire Fighterの皆さんでした。2001年9月11日、私がテレビに釘付けとなったあの場所が、眼前にありました。崩れ行くWorld Trade Centerに取り残された人々を救出に向かった人々の存在。あれだけ大きな建造物が一瞬にして崩壊した事実。言葉には言い表せない真摯な何かが心に湧き上がり、手を握り締め思わず胸に手をあてしてしまう気持ちになりました。

また、New Yorkでは私個人では決してすることはなかったであろう経験もさせていただきました。本場でのミュージカル鑑賞、自然史博物館、ハードロックカフェにブルーノート。(なんといっても、ボロラルフローレンでしょうか?)New Yorkの持つ奥深さを体験させていただいたことによって、日本人であること、日本という国に生きていることを改めて違う視点から考え、自分自身についても今までとは違う視点で考えることができるようになったように思います。今回、このような経験をさせていただいたことに本当に感謝しております。この経験を何らかの形で私のこれからに人生に反映させていきたいです。ありがとうございました。



新入職医師の紹介

患者様のために全力を尽くしますので、宜しくお願いします。



ハートセンター 循環器内科
仲村 圭太
琉球大学卒

平成18年7月より福岡和白病院ハートセンターで勤務しています。今までいくつかの病院で内科、循環器科に携わってきました。これからは様々な心疾患に対する診療にあたっていきます。今後も地域医療に貢献していきたいと思いますので、よろしくお願い致します。



呼吸器外科
高間 辰雄
産業医科大学卒

済生会福岡総合病院外科から来ました高間です。当院では、呼吸器外科、乳腺外科を中心に診療を行なわせて頂いております。頑張りますので、宜しくお願い致します。



脊髄脊椎外科 脊髄脊椎外科部長
井上 崇文
佐賀医科大学卒

若年から高齢者まで、頭蓋頸椎移行部から腰椎まで背骨の病気をすべてを診ます。なかでもからだは元気なのだけれども、腰が痛い、歩きにくい、手足が痺れるといった症状に悩みながら、年のせいだからとあきらめているお年寄りの方のQuality of Lifeを向上させ、天寿を全うできるお手伝いをしていきたいと思っています。



脳神経センター 神経内科
津川 潤
金沢医科大学卒

10月より、神経内科に赴任いたしました。当院で多い脳卒中以外にも神経疾患全般の診療を行なっています。宜しくお願い致します。



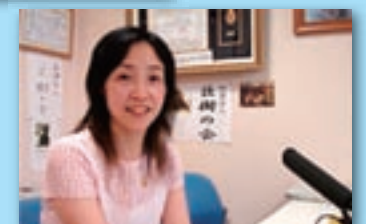
ER 救急センター
長田 学
札幌医科大学卒

出身は北海道ですが、沖縄の病院や離島で働いた後、10月よりこちらでの勤務となりました。福岡は初めてですが、美味しい魚と博多弁のやはらかな響きに感激しています。急な病氣、ケガ、健康上の悩みのある方はどうぞ気軽に相談して下さい。救急外来でお待ちしております。



ためになる「健康教室」の開催

毎週火～土曜日、14時より、福岡和白病院にて、ためになる「健康教室」を開催しています。どなたでも参加できます。医師、担当職員がわかりやすくお話しします。申込みはいりません。詳細につきましてはでは、1階総合案内カウンターへお声掛け下さい。(診療の都合により急遽内容が変更になる場合がございますのでご了承下さい。)



「人生3度ルネッサンス」放送開始

毎週日曜日、午前9時30分～10時まで、CROSS FM(福岡 FM 78.7MHz)にて放送しています。医療・福祉・教育などに起因する社会問題の実情、背景、問題点などについて、専門家を迎えて分かりやすく解いていく番組です。院長 蒲池眞澄と志摩のぶ子さんがナビゲーターを務めます。